

令和 6 年度第 3 回 市長と語ろう！うべ未来トーク（会議要旨）

日 時	令和 7 年 2 月 19 日（水） 18 時 30 分 ～ 19 時 45 分
場 所	本庁舎 4 階 リフレッシュルーム
テ ー マ	女性が自分らしく安心して働き続けられる宇部市
出 席 者	○ 篠崎市長 ○ うべ女性活躍応援ネットワーク委員(1 名) ○ 女性リーダー（8 名）※市が指定する研修等の受講者で、受講終了後、市が認定した方 ○ 担当課（人権・男女共同参画推進課） ○ 事務局（広報広聴課）
内 容	○ 女性が多い職場では、育児休暇を取得する従業員がいるものの、保育園の空きがないため復帰できない人がいる状況で、会社も困っているようだ。 ▶保育料の無償化により、待機児童数が一気に増加している。待機児童の解消を図るには、財政的な支援よりも保育士の人材確保が課題。令和 7 年度から、幼稚園で 0 歳～2 歳の子どもの預けられる仕組みづくりを支援するなど、全体の受け入れ枠を増やすことに取り組みたい。（市長） ○ 子どものことで急遽休む必要がある場合、母親が対応することが圧倒的に多い。多くの会社では男性が急遽休める環境が整っておらず、また、家庭のことで男性が休むこと自体が世間的に認められていない気がする。子育て世代の男性社員、職員のロールモデルをしっかりと作って見てもらうことが大切だと思う。 ▶男性のロールモデルについて、男性から男性に啓発することもある必要かと思う。（市長） ○ 平日の参観日や行事にも可能な限り参加したいが、仕事の調整ができず休めないときもある。小学校最後の参観日も母親ばかりで、来ている保護者も子どもの半分程度。父親ももっと行事に参加できるようになるといい。 ▶父親も出席したいと思っている人は多いと思う。すでに実施している学校もあると思うが、年度初めに年間の参観日スケジュールを伝えることも一案かと思う。子育てを応援する企業とも連携していければと思う。（市長） ○ 育休を 3 回取得したが、会社で迷惑をかけて申し訳ないという気持ちがあった。同僚は代わりの仕事分担に悩んでいたと思う。短期間の人員補充は、企業と派遣会社で条件がマッチすれば需要はあると思う。短期間なら働きたいと思っている人もいる。 ▶女性の妊娠・出産を応援できる仕組みが必要と考えている。スキマ時間など短時間で働ける環境が整備されるとよいのかもしれない。（市長） ○ 学校給食で、毎日箸とスプーンを持参する必要があり、負担に感じている親が多いと思う。県内でこのような取組を行っているのは宇部市だけではないか。 ▶宇部市では、マイ箸・マイスプーン運動として、子どもたちに食の大切さを伝え、基本的な食習慣や正しい食事マナーを身につけてもらうため、平成 18 年から順次はじめた。一つのご意見として参考にしたい。（市長） ○ お茶や着付けの指導者をしているが、趣味などでリフレッシュすると、仕事や家庭のことを頑張ろうと前向きになるのではないかと。 ▶令和 9 年に完成予定のときわスクエアでは、一時保育が可能なので、趣味等の活動の場として活用してもらいやすいのではないかと。（市長）

	○ 学生から「女性が社会に出て働くことってそんなに大変なのか」と聞かれることがある。苦勞することや現実的な話を教える必要もあるが、同時に楽しいこともたくさんあることを伝えていきたい。 ○ 会社の大きなプロジェクトや宿泊を伴う出張について、「子どもがいるから難しいだろう」と機会を与えられていない（奪われている）と感ずることがある。良かれと思つて配慮されているのかもしれないが、経験を積まなければ昇進は難しい。子育て中の男性も女性も、それぞれに機会が与えられることを願っている。 ○ 【市長】 働く女性の皆さんのご意見、思いをお伺いできて、大変参考になった。令和7年度は「女性の暮らしやすさ」を調査研究するワーキンググループを立ち上げる。女性の働きやすさだけでなく、女性の暮らしやすさに着目した対策を行い、女性が暮らしてみたくなる、魅力あるまちを実現していきたい。今後ともご協力をお願いしたい。
課 題 等	○ 市内企業の子育て世代の男性のロールモデル等の情報収集を行い、啓発につなげる。